



東京大学グローバルリーダー養成プログラム紹介

NO.64

明けましておめでとうございます。今年最初のグローバル通信をお届けします。今年も生徒諸君の知的好奇心を刺激するような情報提供を心掛けていきたいと思っております。紹介される記事によっては自分が直接対象にならないこともあろうかと思いますが、自分には関係ないと思わずに自分の見ていない所でこれだけ頑張っている人がいるんだということを知ってもらえれば幸いです。今年もどうかご愛読よろしくお願い致します。

さて今回は東京大学が主催する GLP-GEFIL プログラムのご紹介です。但し、中高生を対象にしたものでなく東京大学在学の学部生を対象にした特別教育プログラムです。中学生や高校低学年の生徒諸君は将来の大学選択に向けての参考に、高校上級学年の生徒諸君には見事合格を勝ち取った後に更なる飛躍を目指す選択肢として知っていただければと思います。

学部前期課程（1・2年次）

GLP (Global Leadership Program) とは

GLP 指定科目を履修する

「グローバル教養」「実践力・課題解決能力」「実践的外国語能力」の3区分から2区分以上に渡り、6単位以上を取得

GEFIL(Global Education for Innovation & Leadership)の履修申請（2年次の8月頃）

ハイレベルの英語によるコミュニケーション能力（IELTS7.0以上またはTOEFL iBT100以上）と強いモチベーションを基準に約100人を選抜

学部後期課程（3・4年次）

GLP-GEFIL

主体的に取り組む実践研究や海外プログラムへの参加などを通じて、英語によるコミュニケーション能力、専門分野を越えて協働する力、地球規模の課題に革新的な解決を提案できる発想力を身に付けます。授業はすべて英語で行われます。

①**GEFIL 実践研究**（4単位）

学生自身が関心を持つ地球規模の問題を対象に創造的・学術的な研究プロジェクトを設計・実践する。

②**GEFIL 海外プログラム**（4単位）

3年次及び4年次に世界トップレベルの大学の厳選されたプログラムやインターンシップ、海外でのボランティア活動に参加します。

③**グローバルリーダー講義**（2単位）

世界の第一線で活躍しているビジネスリーダー、起業家、国際的専門家を迎えて行う講義です。アクティブラーニングの方式を最大限に生かしながら、学生が講義の司会や討論での役割を果た

し、講演者との対話をリードします。

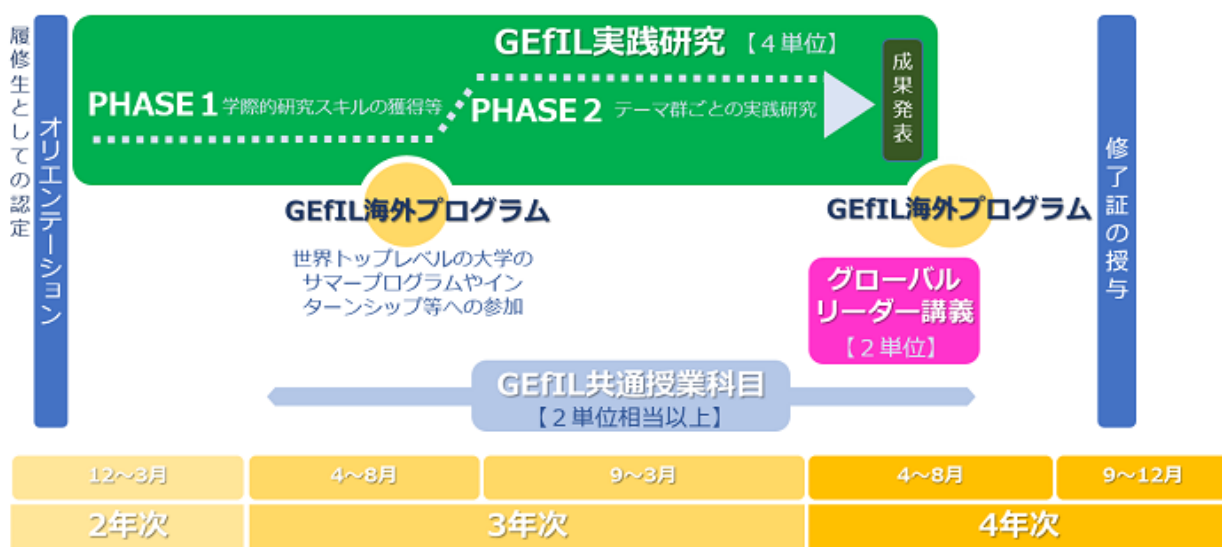
④GEFIL 共通授業科目（2単位）

高度なグローバル教育や実践的外国語能力の育成、アカデミックスキルの獲得等を目指して、実践研究のテーマを深める授業科目群です。

全国から選ばれて入学した東大生の中から更に絞られた約100名だけが受講できる特別教育プログラムということになります。修了した学生には東京大学公式の GLP-GEFIL 修了証が交付されるそうです。更に賛同企業の支援により海外プログラムの授業料等への奨学金もあるそうです。

興味のある生徒諸君は <http://www.glp.u-tokyo.ac.jp> をご覧下さい。

GLP-GEFIL Schedule Outline



本プログラムについての紹介パンフレットが東大から届いています。希望する生徒諸君に差し上げます。中学生でも結構です。部数に限りがありますので先着順とさせていただきます。3号館1階グローバル教育部まで取りに来て下さい。金曜日は常駐する担当者が不在となりますのでご注意ください。

英語 4 技能試験の動向

2020年からの新しい大学受験制度における英語4技能試験について京都大学、九州大学が以下の発表を行いました。

京都大学

大学入学共通テストの外国語において英語を受験した出願者には、CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment) の尺度においてA2以上の英語の言語運用能力を有することを求めます。出願者がA2以上の言語運用能力を有していることは、以下の方法によって確認します。

出願者が、独立行政法人大学入試センターによる「大学入試英語成績提供システム」を通じて英語にかかる民間の資格・検定試験（以下、「認定試験」という。）の成績を提出する場合は、その成績がCEFRの尺度においてA2以上に相当することをCEFRとの対照表（文部科学省 平成30年3月）によって確認します。この方法に代えて、出願者が、在学するまたは卒業した高等学校等の校長がCEFRの尺度においてA2以上の英語の言語運用能力が出願者に備わっていると認める書類を提出する場合は、その書類の記載内容によって確認します。

なお、出願者が、大学入学共通テストの外国語のうち英語のリスニングの免除を受けることを示す書類の写し、または出願者が医学上の理由により認定試験を受検することができない旨を記載した医師の診断書を提出する場合は、この言語運用能力の確認を受ける必要はありません。

九州大学

大学入試センターによって「大学入試英語成績提供システム」の参加要件を満たすと確認された民間の英語試験の成績を、一般選抜の全志願者の出願資格として利用します。出願資格としては、CEFR対照表のA2レベル以上とします。ただし、認定試験の利用には、公平・公正の観点等から未解決な課題が多くあるため、利用初年度となる2021年度一般選抜において、上記の出願資格を満たさない志願者にとっては、その事情を明記した理由書を提出し、やむを得ない理由であると判断できる場合は出願を認めることとします。

一般選抜の全志願者に、外国語試験（英語の場合、リスニングを含む）を課します。

アメリカ留学、はじめの一步説明会情報（大学・大学院留学説明会）

日時：平成31年1月27日（日）午後2時～3時30分

場所：東京都立中央図書館多目的ホール（東京メトロ日比谷線広尾駅徒歩8分）

定員：100名（先着順）

講師：米国大使館広報・文化交流部アドバイザー

申込：都立図書館ホームページ又は東京都立中央図書館へ電話（03-3442-8451）

電話の場合は資料管理課へ午前10時から午後5時まで

費用：無料

希望者にはチラシを差し上げます。3号館1階グローバル教育部へどうぞ。金曜日は担当者不在。

海外大学進学について

最近海外在住の体験のない高校生が海外大学を目指すという例が少しずつ増えているそうです。他校の例ではありますが、12月24日に配信された yahoo ニュースにそんな生徒の体験談を載せた記事が掲載されました。興味のある生徒諸君は <https://news.yahoo.co.jp/feature/1177> で全文を閲覧することができます。

なぜ日本の大学でなくて海外に行くのか、何を学びたいのかという根本の部分をまずは明確にさせる必要がありますが、同時に海外に進学するとなるとどうしても気になるのが高い学費です。何らかの奨学金がないと4年分の経費を賄うのはかなりの負担となります。枠は少ないながらも、意欲のある学生を支援するための奨学金制度もできてきています。上記のニュースから奨学金に関する情報を引用してみます。

増える海外大学進学の奨学金

海外大学進学の奨学金を新設する動きは、この数年で急速に広まっている。2017年には、支援額や募集人数の枠の大きな支援が三つ立ち上がった。いずれも返済義務はない。

柳井正財団（年間上限7万ドル+支援金、募集人数20人程度）、孫正義育英財団（支援内容は個別相談、募集人数不定）、そして文部科学省所管の日本学生支援機構（月5万9000円～11万8000円+年間の授業料上限250万円、募集人数45人程度）だ。また、2015年から学部進学を支援している江副記念財団（募集人数10人程度）も、2018年の募集から、年間上限額を300万円から1000万円に引き上げている。

このうち孫正義育英財団は、支援対象を海外進学に限っていない。財団サイトによると、「『高い志』と『異能』を持った若者」を支援するとしている。それでも海外進学を志す若者の間で注目度は高い。学費に限らず、生活費や渡航費、研究に伴う費用まで、財団側との面談で認められれば支援額の上限はないからだ。「財団生」として支援している145人の4割弱が海外在住だという。

「日本だけ東大」は違うんじゃないか

こうした奨学金を活用して2018年に海外進学したのが、仙台市の公立高校出身で、米プリンストン大学1年の西貝茂辰さん（18）だ。学費を柳井正財団から、研究費や学会参加の渡航費などを孫正義育英財団から給付されている。ニュージャージー州在住の西貝さんにスカイプを通じて取材した。

西貝さんは「さまざまな奨学金財団のおかげで、日本で進学するのと同じくらいの金銭的負担で米国の大学に進学できるようになった」と喜び、「“お金”と“情報”という大きな二つの壁が取り払われた今、地方生にももっと海外進学のチャンスが増えていくと思う」と話す。

西貝さんを海外に向かわせたのはどんなきっかけがあったのでしょうか？続きは上記のウェブでご確認下さい。